

野田物語

民俗学者・宮本常一 ②
父が伝えた

旅からの教訓

宮本常一が民俗学者になる素地が出来たのは、祖父・市五郎と父・善十郎の影響といえるでしょう。祖父は、大工になることをやめて郷里へ帰り、農業を始めました。幼い常一は、祖父とともに畑に出たり、童謡や民謡、昔話を数かぎりなく聞かされ、昼夜問わず祖父と一緒にしました。

一方、同じく農業を営む父は一人旅が好きで、旅での経験や知識を常一によく語って聞かせました。

西方尋常小学校高等科を卒



写真右側の海に面した集落で宮本は生まれた／写真提供＝周防大島町

習所を受験し、見事合格。

「民俗学の基本」

「旅する巨人」

「参考資料」

「旅する巨人」

「参考資料」

「旅する巨人」

「参考資料」

「旅する巨人」

「参考資料」

「旅する巨人」

中之島公園近くの大阪高麗

橋郵便局(後の東郵便局)へ配属され、仕事を終えると、自分が住む町や周辺をよく歩き、さまざまな人の働く姿を観察し、話を聞くようになりました。

宮本は「金のないときは大阪市内をどこまでも歩いた」(中略)：なぜそうしたのか。

ただ歩くことが好きであり、働いている人の姿や顔を見るのが好きであった。(中略)：力一ぱい働いている人の姿は私にはとても美しく見えたのである」と本に書いています。

そして大正15(1926)年、宮本は天王寺師範学校の第2部に合格し、師範卒業後は兵隊生活を数か月送った後、大阪府泉南郡の有真香小学校へ赴任しました。

さらに昭和3(1928)年4月には、天王寺師範の専攻科へ入学、卒業後は同郡の田尻小学校に勤務しますが、歩きながら町や人を観察する生活は続きました。

しかし、風邪が原因で肺結核となり、危篤状態に陥ります。

※文章敬称略(次号へつづく)

【参考資料】「民俗学の旅」宮本常一(講談社)／「旅する巨人」佐野真一(文藝春秋)

8月の休日当番医

休日当番医での診療時間

外科・産婦人科 = 9時～22時(ただし16時～19時は除く)

内科 = 9時～16時(19時～22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
5日(日)	しばやま整形外科(☎7120-5355)	豊泉医院(☎7129-3813)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)
12日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	野田病院(☎7127-3200)	小張総合病院(☎7124-6666)
15日(水)	小張総合病院(☎7124-6666)	野田南部診療所(☎7121-0171)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
19日(日)	野田中央病院(☎7122-6161)	鈴木医院(☎7124-5683)	荒井医院(☎7122-5723)
26日(日)	東葛クリニック野田(☎7124-3101)	花井クリニック(☎7123-3900)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認をしてください。

急病センター

☎7125-1188

▼内科(小児科) = 19時～22時まで(毎日)

▼歯科診療 = 9時～12時まで(休日)

▼7月の連休中に関東に接近した台風4号。幸い野田市での甚大な被害はありませんでしたが、災害はいつやってくるか分かりません▼台風が去った翌16日、新潟・長野を再び強い地震が襲いました。ともに被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます▼野田市では今回「洪水ハザードマップ」を作成し、皆さんにお届けするとともに、自治会や自主防災組織のご協力を得て順次「個別避難支援計画」の策定を進めています▼9月1日は「防災の日」。今年も文化センターで総合防災訓練を実施の予定です(ち)

編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり

人口と世帯(19.7.1現在)●人口=155,139人(+52) 男=78,015人(+36) 女=77,124人(+16) ●世帯数=58,417世帯(+32) ●市の面積=103.54km²

市報のだ 第1001号 平成19年8月1日号/発行=野田市(〒278-8550 野田市鶴奉7番地の1・☎07125-1111)/編集=企画財政部秘書広報課